

銅 概 況

大阪市中央区玉造 2 丁目 28 番 10 号
加藤金属興業株式会社

◎ 平成 30 年 6 月の国内電気銅建値は下記の通りです。

6 月	1 日	～	780 円/Kg
6 月	5 日	～	810 円/Kg
6 月	7 日	～	840 円/Kg
6 月	19 日	～	810 円/kg
6 月	22 日	～	790 円/kg
6 月	27 日	～	780 円/kg

平成 30 年 6 月度は平均で 810.00 円/kg となり、前月比 12.20 円/kg の値上りとなりました。

海外銅価の動き

6 月の LME 銅相場	6/1 ～ 6/28 (安値ドル 6,650.00～7,262.50 高値ドル)
6 月の NYC 銅相場	6/1 ～ 6/28 (安値セント 295.35～329.30 高値セント)

2018 年 6 月度の LME 現物は、6/1 \$6,814.00 でスタート。米トランプ政権は鉄鋼・アルミニウムの輸入制限措置の対象から一時的に除外していた EU やカナダ・メキシコに対し、追加関税を 6/1 から発動すると発表したのに伴い、欧州などの報復措置などによる貿易戦争に発展するとの懸念が浮上。米政権の動向と米株安が大きく影響している中、やや銅価は頭を押さえられたかっこうでスタートした。しかし、世界最大のチリ・エスコンディダ銅山での労使交渉が始まると供給への不安要素から今年 1 月以来の \$7,200 を超えるところまで上昇。6 月中旬以降は米中貿易戦争突入への警戒感から、\$7,000 を割り込む展開となった。為替、株、オイルなどあらゆる市場に影響が懸念されるが、金属相場への影響も避けられない状況である。

銅需給バランス…Brook Hunt 情報 2018 年 4 月 資料より (単位/千トン)

	2017年 実績	2018年 実績	前年比	2019年 予想	前年比	2020年 予想	前年比
全世界地金生産	23,008	23,306	+1.3%	23,678	+1.6%	24,124	+1.9%
全世界地金消費	23,059	23,522	+2.0%	23,997	+2.0%	23,447	+1.9%
全世界需給バランス	-51	-216		-319		-323	

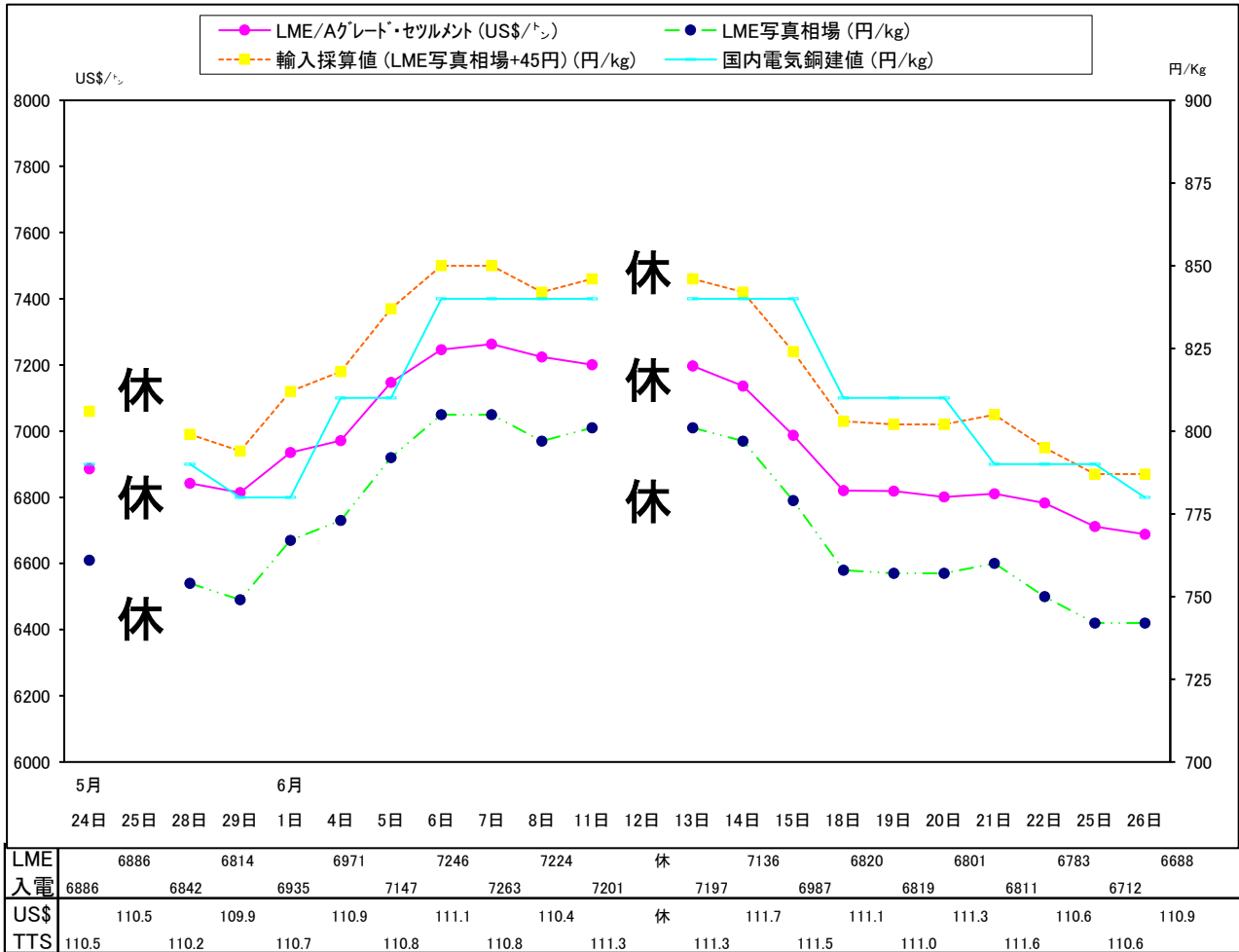
先行き短期見通

国内銅価

6 月度の国内建値は 1 日 780 円/kg でスタート。5 日 810 円、7 日には 840 円と上昇。貿易戦争への大きな懸念が広がる中ではリスク回避が避けられない。19 日 810 円、22 日 790 円、27 日には 780 円へと下げ方向に向かうのも市場動向としてはやむを得ないとも考えられる。

6/29 付 LME \$6,650.00、29 日付 為替 (TTS) 1USD=111.06 円で日本円換算計算値 739 円/kg。2018 年 7 月の国内電気銅建値のスタートは、以降変化のない限りでは、780 円の予想です。

◎ LME相場推移及び国内電気銅建値推移



◎ 平成30年6月の国内亜鉛建値は下記の通りです。

- 6月 1日 ~ 385 円/kg
- 6月 6日 ~ 403 円/kg
- 6月 13日 ~ 406 円/kg
- 6月 19日 ~ 391 円/kg
- 1月 29日 ~ 355 円/kg

平均389.00円/kg

平成30年6月は上記の通りで前月比 4.50円/kgの値上げとなりました。

これはLME亜鉛相場が上昇したため。

◎ その他の建値

電気鉛	6月	333.00 円/kg	(前月比+ 14.00 円/kg)
電気錫 (相対)	6月	3,730.00 円/kg	(前月比- 20.00 円/kg)
ニッケル (溶解用)	6月市中価格	1,750.00 円/kg ~ 1,800.00 円/kg	
銀	5月平均	59,560.00 円/kg	(前月比+ 670.00 円/kg)
	6月28日	59,350.00 円/kg	
金	5月平均	4,624.25 円/g	(前月比+ 17.60 円/g)
	6月28日	4,463.00 円/g	

◎ 伸銅品関係

平成30年5月の伸銅品・品種別生産速報 (全国ベース)

		4月度実績	5月度速報	前月比	前年5月度実績	前年同月比
銅	板	1,263	1,415	12.0%	1,132	25.0%
	条	22,816	22,016	-3.5%	21,311	3.3%
	管	10,185	9,985	-2.0%	10,386	-3.9%
	棒	2,221	2,378	7.1%	2,256	5.4%
	線	285	276	-3.2%	241	14.5%
黄銅	板	608	572	-5.9%	508	12.6%
	条	8,546	8,454	-1.1%	8,033	5.2%
	管	511	538	5.3%	556	-3.2%
	棒	16,273	15,779	-3.0%	15,653	0.8%
	線	2,820	2,768	-1.8%	2,434	13.7%
青銅	板	2,940	2,690	-8.5%	2,720	-1.1%
	条					
	棒	275	239	-13.1%	289	-17.3%
	線	59	61	3.4%	78	-21.8%
洋白・その他	板	531	496	-6.6%	477	4.0%
	条					
	棒	43	35	-18.6%	38	-7.9%
	線	455	484	6.4%	426	13.6%
合計		69,831	68,186	-2.4%	66,538	2.5%

5月の伸銅品生産速報は、68,186トンで前月比マイナス1,645トン、前年同月比+0.3%となり、前年同月比が3ヶ月ぶりにプラスとなりました。

電 線 関 係

電線工業会がまとめた銅電線主要7部門別出荷数量の3月分実績及び4月分推定によれば、増加は自動車の1部門のみで、6部門が前年を割り込み、総計は5万9千425tと同5.3%減少した。特に全体の占有率の高い建設電販が2万6千781tで同5.2%減と伸び悩んだのも響いた。この結果、17年度(4月～3月分実績)の銅電線出荷量は、通信と電力など3部門が前年を下回った。しかし、自動車が前年度比10.3%の増加に加え、主力の建設電販も前年度比0.2%増と僅かにクリアするなど4部門が増加し、総計は68万6千928tで同1.0%の微増になり、3年ぶりにプラスに転じた。一方金額ベースでは銅価スライドの関係上、自動車以外は増加し、総計は1兆1625億6300万円で同1.9%伸びた。また、4月分推定は建販や電気機械、自動車など4部門が上回り、総計は前年同月比0.6%増の5万6千900tで2か月ぶりの増加に転じた。

一方、3月分の部門別出荷量をみると、マイナスグループは建設電販など6部門。通信は光化の影響で前年同月比28.2%減と5ヵ月連続で下降した。電力は張替え需要が遅れており同7.9%減少。電気機械は家電向けが鈍化し同1.9%減。建設電販は本格需要が動かず同5.2%下降し、その他内需は同17.6%の減少。輸出は全体的に低調で16.3%の減少となった。

一方、プラスグループは自動車のみで、生産台数の増加で23ヶ月連続で前年同月を上回り、同6.0%増と好調を維持している。

2018年3月分(実績)・2018年4月分(推定)主要部門別出荷

部門	数 量						金 額		
	3月実績 (t)	対前月 比(%)	対前年同 月比(%)	4月推定 (t)	対前月 比(%)	対前年同 月比(%)	3月実績 (百万円)	対前月 比(%)	対前年同 月比(%)
通 信	853	9.5	▼ 28.2	900	5.5	▼ 8.7	1,550	(12.5)	▼ 17.0
電 力	(2,088)	(7.5)	(▼30.4)	(1,800)	(▼13.8)	(10.0)	1,496	(18.1)	(▼20.3)
電 気 機 械	4,622	14.6	▼ 7.9	3,800	▼ 17.8	▼ 12.7	5,540	15.8	0.3
自 動 車	(574)	(11.7)	(21.4)				576	(14.1)	(30.9)
自 動 車	13,129	6.4	▼ 1.9	12,700	▼ 3.3	1.1	17,787	4.3	5.3
自 動 車	(105)	(1.9)	(20.7)				478	(11.9)	(34.3)
自 動 車	7,670	7.2	6.0	6,900	▼ 10.0	6.1	37,442	12.0	15.4
建 設・電 販	(25)	(56.3)	(47.1)				21	(50.0)	(10.5)
建 設・電 販	26,781	3.1	▼ 5.2	26,600	▼ 0.7	2.8	32,468	7.2	4.9
建 設・電 販	(49)	(40.0)	(63.3)	(700)	(▼7.0)	(12.5)	56	(36.6)	(47.4)
建 設・電 販	4,288	6.0	▼ 17.6	4,400	2.6	▼ 7.0	7,100	8.9	▼ 2.4
建 設・電 販	(2,841)	(8.8)	(▼21.2)	(2,500)	(▼12.0)	(10.7)	2,628	(16.6)	(▼3.7)
建 設・電 販	57,343	5.6	▼ 4.9	55,300	▼ 3.6	0.5	101,887	9.0	7.3
建 設・電 販	(441)	(50.0)	(2840.0)	(100)	(▼77.3)	(426.3)	240	(70.2)	(990.9)
建 設・電 販	2,082	59.8	▼ 16.3	1,600	▼ 23.2	5.3	7,728	66.6	25.3
建 設・電 販	(3,282)	(13.0)	(▼9.4)	(2,600)	(▼20.8)	(14.2)	2,868	(19.7)	(4.3)
建 設・電 販	59,425	6.8	▼ 5.3	56,900	▼ 4.2	0.6	109,615	11.7	8.4
建 設・電 販	(1,250)	(8.0)	(6.3)	(1,300)	(4.0)	(14.1)	339	(7.6)	(17.3)
建 設・電 販	29,122	3.9	▼ 5.5	30,000	3.0	0.6	22,541	2.9	6.2

(注) ()内はアルミ線を示し外数。ただし推定欄のアルミ線は電力、輸出部門以外は

「その他内需部門」に一括計上。▼はマイナス。

金額は四捨五入の為計が合わない場合がある。

2018年3月分品種別出荷 単位:銅量:トン アルミ量:トン 金額:百万円

品 種	数量	対前月比 (%)	対前年 同月比	金額	対前月比 (%)	対前年 同月比	
裸線	3,588	▼ 1.2	▼ 33.5	3,270	▼ 7.0	▼ 23.4	
巻線	12,198	6.8	1.0	12,393	6.2	7.1	
機器用電線	3,727	4.3	5.3	10,729	1.2	8.3	
通信用電線・ケーブル	1,438	5.2	▼ 14.1	3,418	9.5	▼ 5.5	
電力用電線・ケーブル	21,794	10.0	▼ 5.2	25,252	24.7	▼ 13.5	
被覆線	10,313	3.8	▼ 4.2	15,094	6.4	4.2	
輸送用電線	6,367	8.2	0.5	39,459	13.5	12.7	
銅電線計	59,425	6.8	▼ 5.3	109,615	1.7	8.4	
EM電線・ ケーブル	通信用電線・ケーブル	72	10.8	5.9	249	11.7	6.0
EM電線・ ケーブル	電力用電線・ケーブル、被覆線	2,465	▼ 9.7	1.3	2,909	▼ 9.3	9.9
EM電線・ ケーブル	計	2,545	▼ 9.1	1.6	3,203	▼ 7.4	10.3
アルミ電線計	3,282	13.0	▼ 9.4	2,868	19.7	4.3	
光製品	4,528,787	25.3	7.6	33,424	66.9	▼ 0.5	
うち、光ファイバケーブルコード	-	-	-	4,392	23.6	▼ 16.4	

(注) 1. EM電線・ケーブルはJCS規格17品種が対象であり、機器用、消防用等のノンハロタイプは含まれない

(注) 2. 四捨五入の為計が合わない場合がある。

(注) 3. 光製品の数量はkmc

(注) 4. ▼はマイナス

◎ アルミニウム関係

○ 国際アルミニウム地金相場の第1週は、中国政府発表の5月PMIが予想51.4に対して51.9と上回ったことで、需要期待から原材料には上昇材料となる。5月米雇用統計では、平均時給が前年同月比+2.6%と上回ったことで、リスク先行ムードが強まり、非鉄に買いが入る。ルサールへの制裁問題や米アルミ関税など根強い不透明感が漂う中、動きづらい状況が続く。第2週は、5月中国貿易統計で、輸出入ともに好調だったことで非鉄も上昇材料となる。週末のG7では、トランプ氏が首脳宣言採択を拒否、不透明感が漂う。米朝会談は和やかなムードで進んだものの、合意文書の内容が具体性を欠いたことで、失望感から非鉄には下押し材料となる。FOMCで0.25%の利上げを実施したほか、経済の堅調さを背景に今年あと2回、来年3回の利上げ見通しとなっている。第3週は、米大統領が2,000億ドル規模の中国製品に対して10%の追加関税を課すと警告、中国も対抗する姿勢を示したことで、中国株式市場をはじめ、リスク市場の価格が崩れ全面安の展開となる。最終週、米NEC委員長が、大統領は中国への姿勢を緩めていないと発言したことで、貿易摩擦懸念が再燃。リスク回避ムードが相場を下押しした。引き続き、政治次第で二転三転する相場が続くとみられるが、固有材料が不足する中で中期的なトレンドを形成しにくく、当面は\$2,250前後での展開が続くと予想。

○ 対日オファー及び国内価格

- ・対日オファー（CIF） 2018年6月積 2,365.00～2,379.00 ドル/トン
- ・輸入採算価格 2018年6月積 277.50～279.10 円/kg
- ・NSP 2018年4月 301.2 円/kg
- ・NSP（メーカー対応価格） 2018年7月～9月 310.00 円/kg

○ IAI統計アルミニウム新地金生産高（単位=千トン）

	'18年4月	'18年5月	'17年5月
月生産	*2,296.0	2,351.0	2,297.0
平均日産	*76.5	75.8	74.1

(*＝訂正有り) 中国は対象外にしております。

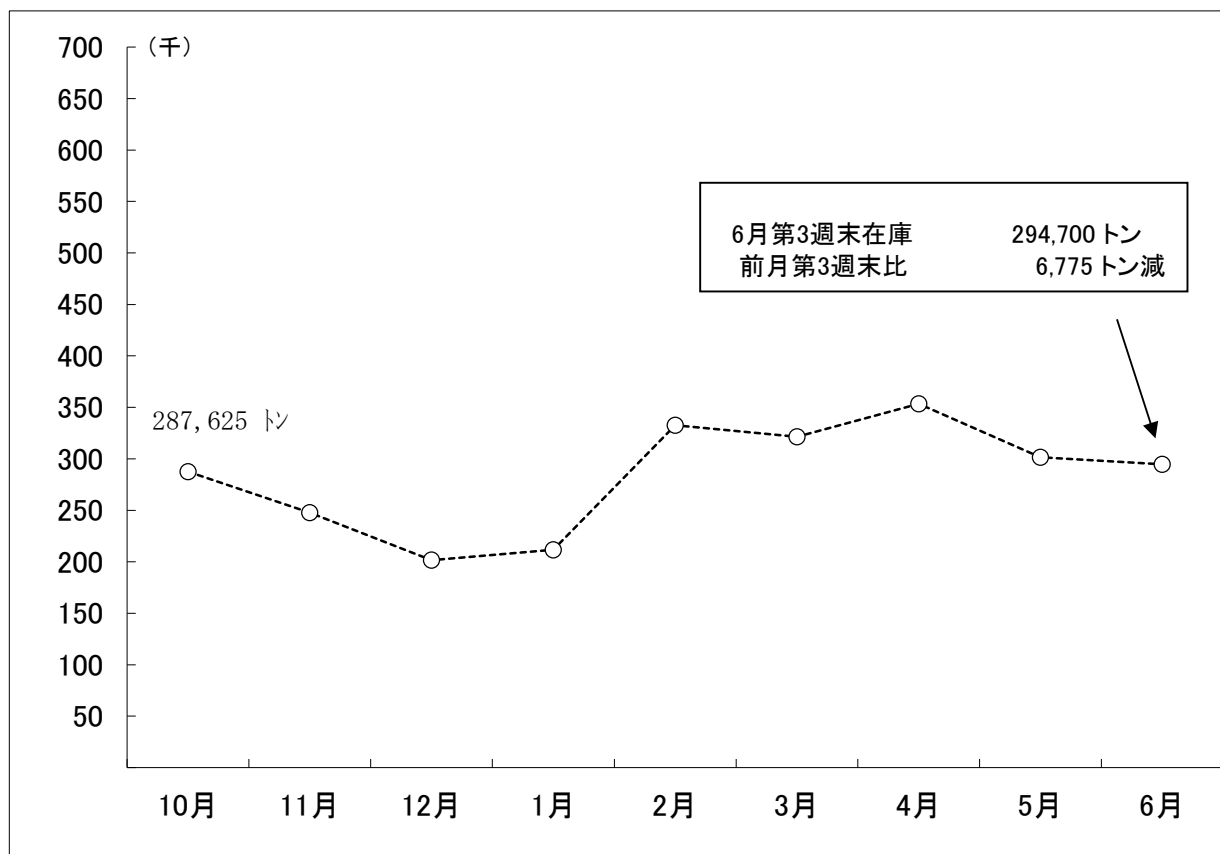
○ アルミインゴット港湾在庫

(単位：トン)

	2018年2月	2018年3月	増減	2017年3月	増減
横浜	121,700	109,200	-12,500	131,900	-22,700
名古屋	135,300	121,100	-14,200	124,100	-3,000
大阪	15,000	15,000	±0	15,000	±0
合計	272,000	245,300	-26,700	271,000	-25,700

上記アルミインゴット港湾在庫に変更致しました。(2015年1月分からの変更です)

◎ LME銅在庫（各月第3週末参考）



◎ COMEX在庫（第3週末）

・ 30年6月15日現在 228,780 S T 前月比 19,867 S T減

◎ 国内山元電気銅在庫

・ 30年4月末 105,105 トン 前月比 6,787 トン増

◎ 伸銅品生産実績

・ 30年4月確報 69,831 トン
・ 30年5月速報 68,186 トン 前月比 97.2 %

◎ 電線出荷実績

・ 30年5月速報 55,000 トン 前月比 96.7 %

◎ 軽圧品生産実績

・ 30年 5月	板 類	108,091 トン	
	押 出 類	63,695 トン	
		171,786 トン	前月比 99.9 %

以上簡単ですが銅概況、他のご報告申し上げます。